

Clinical significance of signal regulatory protein alpha(SIRP α) expression in esophageal squamous cell carcinoma

古賀, 直道

<https://hdl.handle.net/2324/7165096>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

(別紙様式2)

氏名	古賀 直道
論文名	Clinical significance of signal regulatory protein alpha (SIRP α) expression in esophageal squamous cell carcinoma
論文調査委員	主査 九州大学 教授 中原 剛士 副査 九州大学 教授 相島 慎一 副査 九州大学 教授 馬場 英司

論文審査の結果の要旨

申請者らは、食道扁平上皮癌 (ESCC) におけるSIRP α 発現の臨床的意義を明らかにすることを目的に研究を行った。まず、The Cancer Genome Atlas (TCGA) に掲載された95のESCC組織のRNA-seqデータと、131人のESCC患者からなる申請者らの患者コホートの免疫組織化学的解析データを用いて、SIRP α の発現を評価した。次に、SIRP α の発現と臨床病理学的因子、患者の生存期間、腫瘍免疫細胞の浸潤、programmed cell death-ligand 1 (PD-L1) の発現との相関を調べた。全生存期間は、TCGAと患者コホートの両方において、SIRP α の高発現群が低発現群よりも有意に不良であった。加えてSIRP α 発現は、M1マクロファージ、M2マクロファージおよびCD8陽性T細胞の免疫細胞の腫瘍浸潤、またPD-L1発現と有意に相関していた。さらに、SIRP α /PD-L1が共に発現している患者は、どちらか一方のみが発現している患者やどちらも発現していない患者よりも予後が悪い傾向があった。以上から、SIRP α は、マクロファージによる腫瘍細胞の貪食を阻害し、抗腫瘍免疫の抑制を誘導することによって、ESCCの予後不良に関わっている可能性が示唆された。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士(医学)の学位に値すると認める。